

令和6年度 新規指定（県指定文化財）

だいはんじょう 大般若経

- | | |
|----------|---|
| 1 種別（区分） | 有形文化財（書跡・典籍） |
| 2 名称（員数） | 大般若経 600 帖
附 絹本著色釈迦十六善神像 1 幅
経箱 12 合
経帙 60 枚 |
| 3 所有者 | 宗教法人 小川八幡神社 |
| 4 所在の場所 | 和歌山市吹上一丁目4-14（和歌山県立博物館寄託） |
| 5 指定年月日 | 令和7年3月18日 |

（説 明）

海草郡紀美野町に所在する^{おがわはちまん}小川八幡神社所蔵の大般若経は、奈良時代から室町時代までの間に制作されたもので、全て写本からなり、全600帖が完存する。小川八幡神社では、これらを正平18年（1363）頃から約60年後の応永29年（1422）頃までに収集したとみられる。

本経の構成は極めて複雑であるが、近年行われた詳細調査の結果、各帖の制作年代が奈良時代105帖、平安時代375帖、鎌倉時代から室町時代120帖であることが判明した。県内各地に数多く伝わる大般若経の中で、これほど古い時代の経巻を多数含む事例はない。

奈良時代制作の巻には、天平13年（741）「^{な が ぐ ん み け で ら ち し き の あ たい あ き ひ と}那賀郡御毛寺知識紀直^{お が き}商人」等の奥書を持つものが複数あり、これは紀伊国^{ほつが}で発願された「^{ち し き じょう}知識経」、すなわち国家の事業としてではない民間による写経であることを意味している。奈良時代において民間写経が地方に普及していたことを示す貴重な資料であり、同種の資料として全国最大規模の分量を有する。

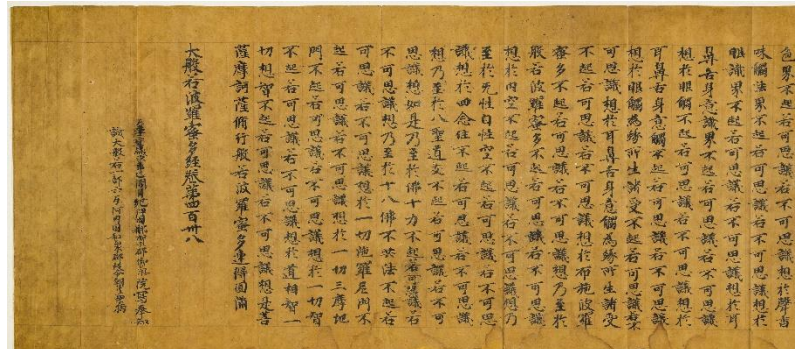
平安時代以降に制作された巻には、^{ひろ}高野山や根来寺、廣八幡宮といった近隣の寺社だけでなく、現在の長野県や埼玉県といった遠方の国々で制作・修理された経巻も含まれている。大般若経の書写や集積が、広域にわたる人の移動や信仰を通じた交流のもとに行われたことがうかがわれる。

小川において、莫大な時間と労力を費やして大般若経の収集が行われたのは、中世に^{きかいそうろん}境相論の舞台となった^{おがわのしょう}小川荘の人々が、災いを祓う力を持つと信じられた大般若経を全て揃えることによって、村の安寧を強く願ったためと推定される。

以上、小川八幡神社所蔵大般若経は、全600帖を全て揃える、県内最古の大般若経として極めて貴重である。奈良・平安時代の写経が8割を占め、中でも奈良時代の民間での発願にもとづく写経を多数含む点で、全国的に見ても稀少な存在である。加えて、中世以来、紀伊国の一地方で散逸することなく現代まで継承されるなど、地域の人々の結束と信仰の営みを示す資料として価値が高い。



経箱に収納された様子



巻438（天平13年書写巻）

紀伊徳川家墓所

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 1 種別（区分） | 記念物（史跡） |
| 2 名称（員数） | 紀伊徳川家墓所（1,253 m ² ） |
| 3 所有者 | 宗教法人 報恩寺 |
| 4 所在の場所 | 和歌山市吹上一丁目5番3 |
| 5 指定年月日 | 令和7年3月18日 |

（説 明）

紀伊徳川家墓所は、和歌山市吹上に所在する日蓮宗報恩寺の境内に立地する。報恩寺は、寛文6年（1666）に紀伊徳川家初代藩主・徳川頼宣の正室・瑤林院の菩提を弔うため、二代藩主・光貞により紀伊徳川家の菩提寺と定められた。墓所は境内東部にある丘陵上に立地する。

墓所北部は石積により一段高い区画を設け、この区画内に3基の藩主夫人の墓石である宝篋印塔が東西に並べて建立される。西から、初代藩主・頼宣の正室・瑤林院、二代藩主・光貞の正室・天真院、五代藩主・吉宗の正室・寛徳院の墓石である。瑤林院の墓石には寛文六年（1666）の銘がみられ、墓石及び下部の敷石は大部分が砂岩製である。天真院と寛徳院の墓石は花崗岩製で、それぞれ宝永四年（1707）、宝永七年（1710）の銘がみられる。

墓所南東部には、南北に並んで4基の墓石が建立される。いずれも宝塔で、寛文年間（1661-1673）から享保年間（1716-1736）にかけての銘がみられ、二代から四代の藩主の生母である側室や息女のものである。また、墓所南西部には南北に並んで上部が丸みをもったカマボコ形の墓石4基と宝塔1基が建立される。それぞれ藩主の側室、子息や息女の墓石である。

当墓所については、『南紀徳川史』において明治8年（1875）に改葬が行われたことが記されているが、改葬の痕跡や絵図との比較から、瑤林院の墓石やその周囲の改修は行わず、現在の墓石配置に改修したと考えられる。また、藩主夫人の墓石は東京都大田区の池上本門寺にも所在するが、これは近世大名墓と同様に本葬墓・分霊墓の制度に基づくものである。

以上のとおり、紀伊徳川家墓所は、御三家である紀伊徳川家の藩主に関係する人物の墓所であり、墓石が良好に残存しているだけでなく、江戸時代から明治初頭にかけての親藩における墓所の変遷が確認できるという特質を有しており、近世大名墓の研究において資料的価値が高いものである。



墓所全景（南西から）



墓所北部 宝篋印塔（南西から）